

中国語アプリ探訪(2)
～中国の食習慣・消費習慣からみえるもの～

中西千香

1. はじめに

今回も iPhone アプリから等身大の中国の姿をみていきたい。今回は特に中国人の消費活動に関するアプリを通してみえる中国にせまる。

中国に少しでも生活をする、日本にもある、アレやコレがどうしてこんな風になるのだろうか、疑問に感じることがある。

また、中国語を長く学んでも、ネットでみられる中国語や旅先で中国語に触れると、習ったことがない、見たことがない表現にでくわし、自分が今まで学んできた中国語との差を感じることもある。

そんなとき、簡単に教科書がだめだと言ってしまうのはよくない。教科書の基盤があつてこそ、応用がきくというものである。また、街の中国語、ネットの中国語というのは、どちらかと言えば教科書の表現より俗っぽいものや書面語的なものの時もある。したがって、教科書とは別に理解する必要がある。

筆者は以下で紹介するアプリを読むというのは、一つのレアリア学習とも言え、これらを読み取ることは、中国社会で生き抜くためにも必要不可欠な能力であると考え。アプリをただみるのではなく、どういう角度でみていけば、中国語の面白さに気づくことができるのかを示していきたい。

2. 中国人の食の常識から料理レシピまで

「食は中国に在り」とはよく言ったものである。日本では目にしない食材を料理して食べていることはよく知っていても、具体的にどういった食材があつて、どういう名前かとまでなると実はあまりよく知られていない。それを解消するべく、いくつかの中華食材や中華料理に関するアプリを紹介したい。

まずは、食材の名前を画像とともに知ることができる[健康飲食必备]である。このアプリでは食材の名前ともものが写真とともにでてくるので非常にわかりやすい。

例えば、テキストで“小米(アワ)”とでてきても、今の学生はどんなものか

想像ができない。それがこのアプリによって、ある程度は理解できるのである。また、同じ食材でも名前が何パターンもある場合がある。

例えば、キャベツには“圓白菜”を筆頭に“卷心菜”、“洋白菜”、“包菜”、“蓮花白”、“疙瘩白”、“大头菜”、“高麗菜”、“结球甘蓝”、“蓝菜”、“西土蓝”、“绿甘蓝”とまったく知らない名前まででてくる。

また、春菊でも“茼蒿”を筆頭に“蒿子杆”、“蓬蒿菜”、“菊花菜”、“茼笋”、“茼蒿菜”、“春菊”、“打妻菜”、“艾菜”、“花冠菊”と複数の名称がでてくる。これらは大陸でもこの中のいくつかをみることはある。このアプリにはこのようにすべて列挙してあるので非常にありがたい。



【図1】食材情報や“食物相克”では食べ合わせのタブーの情報がでている。

また、一食あたりの摂取量と食材の原産地やどういったいわれの食材であるかの説明が続く。そして、栄養についても触れており、食べ合わせのタブーや身体への影響についても書いているところが中国らしい。

例えば、キャベツのところでは、おなかを壊している時には食べないほうがいいというようなことが書かれている。我々日本人はキャベツに対してここまでの知識をもっていないだろうし、普段必要とも思っていないだろう。

しかし、中国のひとびとの食材一つに対しての知識は、我々より多く、日々が生活に取り入れていることを筆者も思い知らされてきた。

例えば、日本人は冬に柿を食べるが、中国人は、冬に柿を食べると体を冷やすと言い、すすんで食べない。また、私が献血に行き貧血気味だと言えば、“红糖水（黒砂糖をお湯に溶かしたもの）”を飲めと複数の人に言われたことを記憶している。

このように、食材に関する知識は豊富にある中国人ではあるが、こういったアプリでより知識をつけたいのかもしれない。

さて、これだけ食材をみていたら今度は作ってみたいと思うかもしれない。そこで料理レシピをみられるアプリ[美食天下]を紹介しよう。ここでは、おなじみの、あるいはオリジナルの料理が画像とともに紹介されている。

例えば北方料理の定番である“东北地三鲜”をみてみよう。まず、このレシピについての説明がある。レシピの説明は、長いものからあっさり短く書いたものまでさまざまである。



食材明细:

主料:
土豆
茄子
青椒

调料:
葱姜末
蒜片
酱油
盐
糖
鸡精
五香粉
水淀粉

制作步骤:



1. 土豆、茄子切块，青椒切片。锅中倒油（多一些），油热后放土豆，将土豆炸至金黄色捞出。



2. 再将茄子放入锅中炸软。



3. 捞出备用。

【图2】“东北地三鲜”のレシピ、ここまで詳しく書いてあれば、やる気になる。

このレシピの説明から“东北地三鲜”が野菜料理であること、油を通すのでカロリーは肉より高いこと、この“地三鲜”がジャガイモ、なす、ピーマンであることもわかる。

また、栄養についても触れる、“青椒经过油锅“洗礼”维生素C差不多也消耗殆尽了(ピーマンも油の入った鍋の「洗礼」を受けるとビタミンCもほぼなくなってしまう)”とちょっとしたダジャレもみることができる。

そのあとはずらりと食材が並ぶ“食材明细”。そして“制作步骤”でレシピが登場する。あとは、調理の上での注意点がいくつかでてくる“小贴士”。相当量のメニューのレシピが丁寧に書いてあるので、このアプリで中華料理のレパートリーは増やせるだろう。

とはいえ、このレシピを読むことは簡単ではない。レシピならではの表現に、ある程度パターンがあるので、まずは読み込んで慣れる必要がある。

3. レストランを予約する

料理を作るよりも食べる専門だという人はこちらのアプリをすすめたい。中国で食事をしたいという時に自分の近隣のレストランを検索できるアプリ[订餐小秘书]である。



←【図3】“火锅”、“海淀区（北京のエリア）”と選んだ結果。“筛选”はさらに「絞り込む」意を表す固い表現。

エリア“地区”、より細かい分類“菜系”（火锅、烤鸭、川菜、湘菜、鲁菜、粤菜、东北菜、云南菜、清真、农家菜、私房菜、素食、土家菜や世界の料理）、価格帯“价格区间”、一人当たりの消費額“人均”など、多くの選択肢の中からレストランを選び、直接電話もできる。

これらを使って、食事に誘い、どこへ行くか相談し、どこはおいしいとか、辛いのは嫌だとかの表現を混ぜて会話練習をすれば、非常に有用である。“今天晚上我们一起去吃饭吧。”“这附近有什么好吃的餐厅吗？”“有，你喜欢吃辣的吗？”“喜欢，我特别喜欢吃火锅。”“那我们去重庆火锅店吧！”“好，那我先打个电话预定一下，今天我请客。”と広げていける。

中国で食事をする際に、価格や味などを店構えから見分けるには相当の眼力を養わなければならないし、大丈夫だろうと思って入っても、実際は目が飛び出るほど高いことも多々ある。そんなときにこれらの情報によって、多くの心配は解消できる。

このアプリをみると、私たちはたいてい中華料理と一つにくっっているが、実際は、地域や少数民族の区分やそれ以上のジャンルがあることを知る。

これらを読み取る能力は、現行の教科書ではなかなか養えない。また、中国のエリアの略称（例：鲁=山東省、湘=湖南省、粤=広東省）を知っている必要がある。これら略称を、中国人は、鉄道の路線や車のナンバーなどを通して、常識的に身につけているが、わたしたち非母語話者は意識的に学ぶ必要があるだろう。

4. スーパーで買い物

待ちに待ったアプリが最近出た。それは上海を中心に展開するスーパーのアプリ[掌上一号店]である。さすがに生鮮食品は取り扱っていないようだが、比較的

日持ちのする商品はたいていみることができる。

商品の在庫の有無を商品名でみていくだけではなく、バーコードで確かめることができることには驚いた。試しに筆者の研究室にあった“悠浓粒粒玉米浓汤(クノール粒粒コーンスープ)”をスキャンしてみた【図4中】。すると、みごとにバーコードを読み取り、商品情報のページにたどりついた。



【図4】左“条形码”がバーコード、“扫描”は「スキャン」

以前、筆者は2010年6月号の『中国語ジャーナル』でレアリアの特集を執筆した。その特集では、チラシなどの紙媒体に書かれた中国語を学ぶというコンセプトで、食材や商品の名前、価格や商習慣などがこれらレアリアから確かめることができ、学習にも役立つことを書いた。

今度はiPhoneアプリである。紙媒体のレアリアよりもタイムリーに商品の動きや何が売れ筋なのかまでこのアプリから確かめることが可能である。

【図5】はグリコ“格力高”のコロン“可珑”ポッキー“百奇”、サントリー“三得利”のウーロン茶“乌龙茶”の商品ページである。

これらパッケージは、高校生や大学生なら、どこかで見たことがあるロゴにわくわくし、モチベーションがあがる教材である。筆者も授業の中でスーパーのチラシを見せたり、実物を見せたりして、よくパッケージを観察させる。

スーパーのチラシでは、多くの情報を一度に見られるところが利点だが、このアプリはその多くの情報をさらに絞り込んでくれる。例えば、グリコの商品を一括で検索してみた。

検索してみるとわかるが、ポッキーやコロンの種類が日本より多く、味も中国ならではの味もある。また、ウーロン茶では()に“无糖”と表記されていることに気づく。さらに、日本人からすれば想像できない“低糖”という表記がで

お茶に砂糖という商品は、中国へ行けば当然のもので、緑茶でも砂糖が入る。お茶に砂糖という文化は、日本人には紅茶にいれるぐらいでほかはあまりしない。しかし、中国人にとってはそれほどおかしなことではない。



【図5】“慕斯甘栗味”は、中国ならではの「甘栗ムース味」。右図下の欄では、商品検索は“検索”から、また商品のジャンル“分類”からも探すことができる。

また、“一号价”（一号店価格）という表現からは「うちの店はとりわけ安価でやっています」という雰囲気が伝わってくる。

そして、「商品在庫あり＝現物の商品を提供可能」には“现有有货”や“现货”、“売り切れ”は“已售完”という固い表現を使い、また、「買う」もやはり“购买”という少々固い表現になる。

それから、“购物车”の表現にも注目したい。以前、中国のスーパーでみたときには表示は“推车(カート)”と表示していたように思う。この“推车”をGoogleで画像検索すると、所謂台車や買い物カート、乳母車のようなものがでてくる。

“推车”では、物を運ぶためのカートでしかなく、買い物をうながすニュアンスがなかなかみえない。

実際のスーパーで用いるならば、“推车”で問題ないだろうが、ネットストアでは実感がわからない。そこででてくるのが“购物车”なのである。ネットをみると“您的购物车还是空的，赶紧行动吧！（あなたの買い物カートはまだ空っぽだよ、買ってしまいな。）”という表現もでてくる。買い物してこそこの“购物车”という商売根性が見えてくるのではないか。

[付記]

本稿で紹介したアプリは2011年5月現在で使用可能であったものである。アプリが削除されたことなどにより検索されない場合もあるかもしれないが、ご了承願いたい。